

■第16回JIA中国建築大賞2024 受賞作品紹介

■一般建築部門／大賞

福山東警察署駅前交番庁舎（広島県）

設計者 平井 充・山口 紗由 メグロ建築研究所

山陽新幹線福山駅前の都市計画広場の一隅を占める交番である。北側に新幹線高架駅が、南側には駅前の高層マンションや中層のホテルの宿泊棟が取り囲む場所で、交番庁舎のボリュームが、あたかもそれらのミニチュアのようにつくられているのが効果的である。おかげで小さなボリュームでありながら、それら周辺の大きな構造物と対峙する存在感を持ち、また対峙すると同時に周辺に融和もしているところが甚だ巧みである。建物周囲を道路が取り巻く交通島の独特な敷地に加えて、一般の建築に比べてひときわ制約の多い交番庁舎という建物機能を注意深く分解し、外との環境に合わせて再構成した点が秀逸である。（古谷誠章）



■住宅部門／大賞

牛田本町の家（広島県）

設計者 吉田 豊 吉田豊建築設計事務所

広島市北部の交通量のある道に面する一戸建て二世帯住居であるが、外観からはややそっけなく見えるほどの寡黙なファサードがあるのみである。しかし屋内に入ると、ディテールはシンプルなものだが空間が一挙に語り出す、そんな内外の印象のギャップが嬉しい。特に2階から3階の吹き抜けが思いがけず豊かであり、この吹き抜け空間が突如立ち現れる様は訪れる人に心地よい驚きを与えるものだ。バルコニーやさらに屋上のルーフテラスに至るまで、随所に意外な発見があり、箱の中の迷路のような印象がある。螺旋状の階段がもたらすカーブする壁の造形も見事である。都市部での二世帯住居のこれからの在り方を示唆する住宅である。（古谷誠章）



■一般建築部門／優秀賞

邑咲館（おおさきかん）（島根県）

設計者 三宅 正浩 (株)y+M design office

前面道路に対し、住宅のようなサイズの施設が見えて来る。初見では内外に多用されたアーチ開口枠が目に残るように感じたが、出隅部の隅切りや分割されたボリューム、また長屋を住宅のようなスケールに見せる配置がうまく効いており、周辺に馴染みつつも少し違和感の残る、つまり存在感のある建築となっている。内部においては路地のような場所が広がっているが、平面的には点対称に近い構成であり、理路整然とした展開を見せるのかと思われたものの、各ボリュームに通じる階段や、ボリューム同士に挟まれたニッチな空間が交錯して多様さを生み出しており、視覚的・身体的に楽しく、現代の寮として相応しいように感じられた。（村重保則）



■一般建築部門／優秀賞

Oshigome Base（広島県）

設計者 小松 隼人 (株)小松隼人建築設計事務所

幹線道路に近接した敷地に建つオフィスとゲストルームの住まいを内包した建築である。特徴的な草屋根は前面道路と並行する河川の土手と対をなすような傾斜により、寝転がると車の行き交いは視界から消失するなど精緻に周辺の読み取りがされた設計であった。さらに、この屋根にはオーナーが飼っている山羊がいる。何ともチャームिंगな山羊は、草屋根を綺麗にするだけではなく、この地域の人たちからも愛されるアイコンとしての役割を担っているように感じられた。1階は前面道路から程よいランドスケープのバッファ空間によって落ち着いたワークプレイスとしながらも豊かな内外の関係性を巧みに作りだしており気持ちのよい空間であった。（前田圭介）



■住宅部門／優秀賞

coprino（岡山県）

設計者 上久保 隆幸 ROR (株)

外部に開口部の少ない、閉じられた建築のように見えるが、敷地境界に沿って囲障はなくむしろオープンさを感じる建築の佇まいである。敷地中央に住居を配置し、いわゆる死に面のない建築で潔さも感じられる。現地審査前には最小限の開口がどう内部に影響を与えているのか気になっていたが、実際には室内は適度に明るく、籠るにはほどよい設えで、プランやスケールで想定される以上に複雑で奥行きのあるワンルーム空間が広がっている。建物のフットプリントを小さく抑えた分、仕上材で覆われた屋



根架構が気になりはするものの、クライアントの要望に素直に寄り添いながら、牧歌的な雰囲気とかわいらしさ、内面の複雑さ等、ミニマルとは対極の感覚も併せ持った住宅である。（村重保則）

■一般建築部門／奨励賞

道上のデイサービス（広島県）

設計者 橋本 雅尊 橋本雅尊建築設計事務所

住宅街に建つデイサービス機能をもった建築である。建主からの要望もあり1階のデイサービス及び2階の事務機能含めて、周辺に対してやや大きめの開口をリズムカルに採り入れているのが印象的であった。特徴的な‘く’の字型’の平面計画によって内部では人と人との適度な距離感を生み出しており、コンパクトでありながらも心地よい空間であった。その一方、住宅街である周辺との繋がりを考えると壁際に設えていた外構の植栽空間にバッファがもう少しあると緩やかな相互作用がもたらせるのではと感じられた。（前田圭介）



■一般建築部門／奨励賞

道の駅 ごいせ仁摩（島根県）

設計者 安藤 大輔 安藤建築設計室(株)

切妻の瓦屋根、東西に長いボリューム、低く抑えられた軒先といった構成を好む建築家は少なくないと思うが、建築の構えに対し初見で好感を持った。この建築は敷地北側を流れる潮川に沿って配置されている。施設全体は緩やかな弧を描いており、そのことが施工手間以上に独特の優しさと人を迎え入れる雰囲気をもった建築足らしめている。北側バックヤードはRC造、南側の主機能部は木造の調弦梁架構という明快な構造と動線計画で、管理棟、レストラン棟、ステージまでがそれぞれうまく機能しており、人々を出迎える屋根通路やパッサージュの存在も忘れてはならない。仕様木材の選定から管理、設計、地元大工による施工までの長い道のりの結晶として、地場の魅力を存分に感じられる道の駅である。（村重保則）



■住宅部門／奨励賞

向島の家（広島県）

設計者 原山 大・村上 芙美子 一級建築士事務所 HaMAo

尾道から程近い向島の集落の一面に建つ住宅である。設計者はこの地域がもつ大らかな環境に即したように、緩やかな敷地境界線として外構を仕上げ周囲と接続していたのが印象的であった。また特徴的な異なる2つのボリュームの隙間を介した回遊動線が暮らしに多様な立体的広がりを与えていた。新築の二世帯住居として設計された住宅はこの地域との同時性を持ち、内部空間においてもノスタルジックな空気感が漂っているように感じられた。（前田圭介）



■一般建築部門／特別賞

岡山大学共育共創コモンズ（島根県）

設計者 長澤 怜 清水建設(株)

もはや岡山県の地場産材といってもいいCLTの特性を最大限に活かした、圧倒的な木質感のある質実剛健な大学講堂である。講堂は2階に持ち上げられ外部の大階段から直接アプローチできる。1階は地域との共創などに資する外部開放可能な諸室群で、無柱となる上階を支える構造としても合理的に機能している。CLTとコンクリートスラブのハイブリッド工法としたことで、妻側に現れているCLT壁の一松状のデザインが可能となった。外壁面を保護する屋根底の張り出しを支えるCLT梁の端部の処理も、造形のバランスもよく圧巻であった。惜しむらくは南側に突出したガラスの大庇とCLT梁の組み合わせが、全体の中でやや唐突感があるように思われる。（古谷誠章）



■協賛

(株)ウッドワン、(株)エヌ・エス・ピー住宅事業部広島営業所、(株)エフワンエヌ中国支店、オスモ&エーデル(株)、カワノ工業(株)、グライフソフトジャパン(株)、ケイミュー(株)、コクヨマーケティング(株)、小松ウオール工業(株)、三協立山(株)三協アルミ社中国支店、三建設備工業(株)中国支店、サン・フロアホーム(株)、三和シャッター工業(株)中国支店、(株)ジェイジェイ広島事業所、(株)総合資格、大光電機(株)中国支店、大和重工(株)広島営業所、(株)中建日報社、DIC デコール(株)大阪支店、DN ライティング(株)広島営業所、東芝エレベータ(株)中国支社、TOTO (株)中国支社、(株)ノザワ広島支店、パナソニック(株)エレクトリックワークス社、(株)松岡製作所、三菱電機ビルソリューションズ(株)中国支社、(株)ヤマシタ、(株)LIXIL、(株)リンケン